

Nagoya Noh Theater
January 2018

平成30年

1月3日(水)

13:00開演(12:30開場)

※能「翁」開演後30分間は入退場できませんのでご注意ください。

前売券発売11月2日(木)

能

狂言

能

シテ 清沢 一政

「羽衣」(観世流)
はごろも
和合之舞

シテ 奥津健太郎

「寝音曲」(和泉流)
ねおんぎよく

三番 藤波 徹

千歳 伊藤 裕貴

シテ 久田 勘鷗
「翁」(観世流)
おきな

名古屋能楽堂 正月特別公演

名古屋能楽堂 開館20周年記念

【能楽師が20周年におくる能・狂言20番】

二十年経ったとは思えない。(名古屋能楽堂が開館したのは)まだこの間みたいな気がする。幼稚園の頃から子方として舞台に立っている。戦後初めて見せてもらった能は、名人の橋岡久太郎師の舞台。中学一年生の時だった。中区の昔の商工会議所でも、それから松坂屋の一番上の七階の劇場でも能を見せていただいた。高等学校二年生の時、我が家は経済的に厳しい状況だったが、父がまた能をはじめた。ぼくの大鼓の師匠は西尾孫太郎という方で、その西尾師から流儀(石井流)の本拠地である京都へ行くと言われて、谷口喜代三師に師事した。京都の大鼓は、言葉と同じで少しやわらかい。谷口喜代三師のおかげで今、大鼓を打っている。【河村総一郎 石井流大鼓方】



新作能面を披露します

福井県池田町の「第15回 全国新作能面公募展」において、秀作の能面「白式尉」(作者:糸井久明さん/福岡県)を本公演の能「翁」のシテで使用します。

ご来場の方に抽選で素敵なプレゼント!

本公演にご来場の方の中から抽選で10名様に能楽グッズをプレゼントします。

※ご入場の際にお配りするパンフレットに応募券[ご応募の締切は休憩終了まで]が入っておりますのでご確認ください。



能「翁」撮影:杉浦賢次



能「羽衣」撮影:杉浦賢次

主催



公益社団法人 名古屋市文化振興事業団 [名古屋能楽堂]

公益社団法人 能楽協会 名古屋支部



※能「翁」開演30分間は入退場できませんので、ご注意ください。

能 翁(観世流)

翁 久田 勘鷗
千歳 伊藤 裕貴
三番叟 藤波 徹
面箱持 伊藤 泰

笛 竹市 学
脇鼓 清水 皓祐
小鼓頭取 久田舜一郎
脇鼓 荒木 建作
大鼓 河村眞之介

後見 八神 孝充
祖父江 修一

狂言後見 井上松次郎
野村又三郎

吉沢 旭 山中 雅志
本田 勲 清沢 一政
松山 幸親 久保信一朗

狂言 寝音曲(和泉流)

シテ 太郎冠者 奥津健太郎
アド 主 松田 高義

後見 伴野 俊彦

休憩十五分

能 羽衣和合之舞(観世流)

シテ 天人 清沢 一政
ワキ 漁師伯龍 高安 勝久
ワキツレ 漁師 橋本 幸
ワキツレ 漁師 相元 正樹

笛 大野 誠
小鼓 後藤嘉津幸
大鼓 河村総一郎
太鼓 鬼頭 義命

後見 山中 雅志
久保信一朗

角田 尚香 久田三津子
村井 邦子 前野 郁子
瀬戸 洋子 近藤 幸江
星野 路子 今澤 美和

(午後四時頃終了予定)

【イヤホンガイド】

能「翁」 日本語/飯塚恵理人
能「羽衣」 日本語/伊藤利香
英語/藤江さおり(通訳ガイド)

都合により出演者等が変更となる場合がございます。あらかじめご了承ください。

◆能解説「翁」(おきな)

新春、切火で清められた舞台上に、潔斎をすませた演者が、面箱(おもて)千歳・三番叟...と統べて全員が登場する。切火とは、この場合、幕際から火打石で火を飛ばすこと。後見の役割、清新の気が漂う。翁は狩衣、指貫、面箱、千歳、三番叟は侍籠帽子に直垂、唾子、地謡などは侍籠帽子に素着を着る。

「翁」の舞は三部から成り立っていて、最初の千歳は鳴るは海の水...と謡い出し、若々しく頭取とした舞、次に翁の面を舞台上でつけたシテは祈禱的な意味合いを持つ重厚な舞を舞う。その中で角、脇鼓前、中央で三回ずつ拍子を踏む。これを天、地、人の拍子と称する。翁と千歳の退場のおと、三番叟の賑やかな舞となる。はじめの部分を「採之段」、黒式尉の面をつけた翁を持った後半部の舞を「鈴之段」と称する。天下泰平、国土安穩を祈る儀式能。

新年の翁。それはさわやかな日本の新春。(泉 嘉彦)

◆狂言解説「寝音曲」(ねおんきょく)

前夜酔い紛れに小唄を謡っていた召使(太郎冠者)。それを偶々聞きつけた主人は、自分の前で謡ってみたいと所望します。太郎冠者は今後度々謡わされては迷惑と考え、「酒を呑まねば謡えない」女の腰枕がないと謡えないなどと、次々に条件を付けては断ろうと応じますが...。主人と太郎冠者の駆け引きが見どころです。流派によって起用される謡は様々ですが、主人の膝を女性性と思つて横になり、機嫌良く謡う様などは、演者の技量が試される聞きどころともなっています。(井上 菊次郎)

◆能解説「羽衣」和合之舞(はごるも)

春の三保の松原で、漁師の伯龍が松にかかると衣を見つけた持ち帰ろうとする。それは天人の羽衣であった。羽衣がなまは天に帰ることができず悲しむ天人に、伯龍はやさしく羽衣をかえます。天人は感謝の舞を舞いながら、愛鷹山や富士のたかねの彼方の空へと霞にまぎれて消え失せていった。演出上の小書(こがき)「和合之舞」は基本演出に対して以下のような変化をする。先づ、基本演出ではこの能の中心部「クセ」↓「序之舞」↓或いは「天つ御空の縁の衣」又は「終曲の衣」の節↓「破之舞」↓「東遊」の数々に...となつて終曲を迎える。小書「和合之舞」の場合には「クセ」↓「序之舞」(カ、リ、初段、二段、三段)の三段目が「破之舞」と合体して「東遊」の数々に...と結びついて(即ち、序之舞、三段目が「破之舞」となる)、或いは「天つ御空」の...の節が省かれて終曲へと運ばれてゆく。そのうえ「クセ」に通常演出とは異なる型が組み込まれ、キリは地謡、唾子に緩急がつき「霞」にまぎれて失せにけり...シテは舞へ入り、「ワキ」留めとなる。

序之舞は幽艶な「かづら物」のシテが舞つ舞で、静謐にして重厚である。そのため、さぞかし軽やかな舞がはじまることを期待して重みに耐えているうちに、次第に舞台は華やかさを加えて、質の高い象徴性、武家の線の大太さを根底に保持しながらこの能は「フィナーレ」を迎えることとなる。清澄にして品格に充ちた能。(泉 嘉彦)

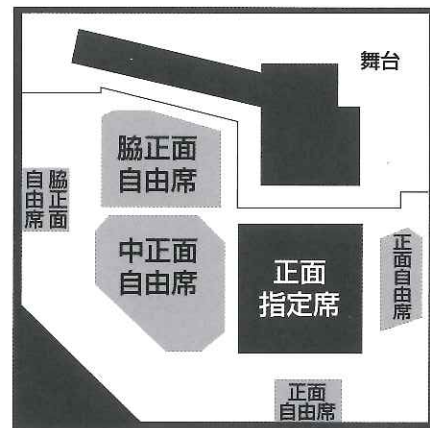
[受講チケット] 正月特別公演とのセット券600円、一般券1,000円 ほか ◆能「翁」「羽衣」のあらすじ、見どころを解説します。詳細は事前学習講座チラシをご覧ください。

正月特別公演事前学習講座 12月16日(土) 14:00~16:00

Table with ticket prices: 前売 Advance sale 5,200円, 自由 Non reserved plus ¥500 on the day 4,100円 (一般 Adult), 2,100円 (学生 Student under 25 years old)

※当日券は自由席のみ500円増となります。
※事業団友の会会員(前売のみ)、障がい者手帳等をお持ちの方(付添1名含む)、事前学習講座とのセット券同時購入は1割引。
※上演中の写真撮影・ビデオ撮影・録音は、事前に許可を受けた方以外はお断りください。*

前売券取扱所 Ticket Office
名古屋能楽堂/TEL.052-231-0088
名古屋市文化振興事業団チケットガイド/TEL.052-249-9387
中京テレビ事業/TEL.052-588-4477
柴プレチケ92/TEL.052-953-0777
チケットぴあ/TEL.0570-02-9999
お近くのセブンイレブン、サークルKサンクスでもお買い求めいただけます。
*外国籍が証明できるパスポート等を持参された方には前売・当日とも1割引きます。(名古屋能楽堂取扱いのみ)
To visitors who bring their passports or the likes which prove respective foreign nationalities, advance/day tickets are available at a 10% discount. (at Nagoya Noh Theater only)
●イヤホンガイド 演能の解説が聞ける受信機を無料で貸します。(日本語/英語) Noh performance Guide/Rent-free for a wireless headset(Japanese/English)
お問い合わせ/名古屋能楽堂 TEL.052-231-0088 FAX.052-231-8756 http://www.bunka758.or.jp



ワクワク・ドキドキ特典がいっぱい 「友の会」会員募集中!
公益財団法人 名古屋文化振興事業団 TEL.052-249-9385